

## 「出口戦略・事業の持続化に向けた戦略の成果」に関する補足資料

事後評価に含まれる「出口戦略・事業の持続化に向けた戦略の成果」について、考え方を補足します。導入されて日が浅い制度であるため、継続的な改善も必要になってくるかと思えます。お気づきの点がございましたら、ぜひ JANPIA までご意見をお寄せください。

### 1. 休眠預金制度における持続可能性の考え方

本制度では、社会の諸課題の解決のための自律的かつ持続的な仕組みの構築を目指しております。このため、民間公益活動の自立した担い手を育成するため、指定活用団体、資金分配団体及び活動支援団体においては、支援先の団体等との間で達成すべき成果と支援の出口について事前に合意した上で、一定の期間を区切った支援を行うこととし、休眠預金等に係る資金に依存した団体を生まないための仕組みを構築することを目指しております<sup>1</sup>。この観点より、持続可能性は、休眠預金等に係る資金の活用にあたっての基本原則の一つとされ、申請団体選定時に「継続性」が選定基準に位置付けられ、事業期間をとおして、実行団体の活動の持続性や発展性を意識した伴走支援の実施を重視した取り組みを行っております。

### 2. 補足資料による説明を追加した経緯

これまで、出口戦略についての具体的な記載方法は団体に委ねてきましたが、休眠預金制度として、実行団体の助成終了後の見通しの実態を把握し、団体が望んだ状態が達成できているのか、あるいは、課題があるとしたらどのような課題があるのか明らかにすることは、民間公益活動の持続性や発展を推進していく上で、そのために制度が上手く機能していくために必要な改善は何かを議論していく上で、重要な情報源として取りまとめることが重要との整理になりました。こ

---

<sup>1</sup> 休眠預金等交付金に係る資金の活用に関する基本方針（令和5年10月31日一部改正）  
p.6 第2 休眠預金等に係る資金の活用に関する基本的な事項 より

のため、JANPIA では、事後評価時点での実態、および、助成終了期後、一定期間が経った後に、実態調査を行い、資金分配団体や実行団体の皆様も含めた関係者で広く議論を進め、より良い伴走支援や研修に反映してまいりたいと考えております。

### 3. 事後評価報告書「出口戦略・事業の持続化に向けた戦略の成果」に記載する内容

報告にあたっては、以下の点が明確になるよう留意してください。

#### (1) 助成期間中の出口戦略・事業の持続化に向けた戦略の達成状況について

- ① 出口戦略の達成状況
- ② 出口戦略の実現に最も影響を与えた要因

#### (2) 助成終了後の事業の実施見込みについて

##### ①助成終了後の事業規模の見込み：

- ・ 助成開始前と比べ、縮小・ほぼ同程度・拡大 のいずれに該当するか
- ・ 助成時と比べ、縮小・ほぼ同程度・拡大 のいずれに該当するか

##### ②助成終了後の活動内容の見込み：

- ・ 助成時と比べ、活動内容は変更しているか。
- ・ 活動内容を変更した理由は何か（例：課題やニーズに変化が生じた、運営体制が整わないため）

##### ③資金調達状況

- ・ 資金はどのような調達ができているか。資金を調達できた最も大きな要因は何であったか。
- ・ 助成開始時に想定したような資金調達のめどが立っていない場合には、何がボトルネックとなったか。

##### ④人材確保状況

- ・ 活動を継続していく上で、人材は確保できているか。人材を確保できた最も大きな要因は何であったか。

以上